

巻頭言には、若手の先生へのメッセージが込められていることが多い。今月号は鳥居秀嗣先生が「皮膚科のなかでの専門を持とう」と若手の先生方に呼びかけている。また、安部正敏先生の憧れ雑感も日本皮膚科学会サマースクールを扱っている。医局ラウンジでは、山形大学の温かく、働きやすい医局で若手の先生方がのびのびと過ごしている様子がうかがえる。若い先生方の参考になるかどうかかわからないが、私の現在までの過程を伝えて、編集後記とする。

私は平成元年、初期研修の制度は未だなく、直接皮膚科に入局した。巻頭言の鳥居秀嗣先生とは同期である。皆が専門を決めるなか、私は白斑の専門外来に入った。卒後4年目に留学し、創傷治癒に関連する細胞成長因子の発現制御の研究をした。帰国後、留学時の約束で1年半関東通信病院（現・NTT 東日本関東病院）に出向し、臨床に専念した。大学に戻り医局長を務めながら、留学先での仕事で学位をとり、11年目で女子医大に異動し、座瘡に取り組むことになった。11年お世話になった後、縁あって虎の門病院に奉職した。

色々な仕事をさせていただいたが、自分にとって無駄なことはなかったように思う。今の私を支えているのは、基礎研究や臨床研究に触れたことで科学的な思考が身についたことと、座瘡という専門分野があることである。座瘡に取り組むきっかけは、関東通信病院の原田昭太郎先生と女子医大の川島眞名誉教授の示唆だった。皮膚科の臨床の編集委員に選ばれたのは、前任の大原國章先生が編集委員であつためぐりあわせと思っている。与えられた場所でベストを尽くしていたつもりであるが、恩師に恵まれて色々なチャンスを与えられたことが大きい。

「皮膚科のなかでの専門を持とう」は、乾癬やアトピー性皮膚炎のようなメジャーな疾患だけではなく、注目されていない分野でも良いと思う。医療が急速に発展しているなかで、日本皮膚科学会は優秀な先生を勧誘し、学会での教育システムを充実させている。その結果、優秀な若手の先生が増えている。その先生方が活躍して、これからの皮膚科を大きく発展させてくれることを期待している。

（林 伸和）

— 顧 問 —

大原國章 大塚藤男

— 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第61巻 第4号 4月号

2019年4月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。